

令和6年度

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

学力向上検討委員会構成

岩倉小学校
「学力向上実行プラン」

- ①基礎的・基本的事項を身に付けさせる指導の継続
- ②考えを深めるための書いたり話したりする活動の充実

学力向上推進員	委員
	校長 川西 正 教頭 西川 智子 教務主任 原 一貴 研修・情報教育主任 荒岡 由里 人権主任 續 愛子 特別支援教育コーディネーター 辻岡 靖代
濱田 なるみ	

校長

川西 正

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等,様々な機会を捉え,取組状況の把握を行う。

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○漢字の読み書きや四則計算など,「知識・理解」の領域においては,ある程度の定着が見られる。 ●問題を的確に読み取る力や自分の考えを書く力,習得した知識等を実生活の中で活用することができていない。	・言語および数量や図形に関する基礎的・基本的な知識・技能を確実に身に付けることができる。	・学習のめあてを明確にして,授業の見通しを持たせ,全校で統一した振り返りの仕方を提示し,自己評価をさせる。 ・デジタル教材やプリント教材を活用する。 ・読解力を身に付ける教材の活用,読書の感想や日記を書くことを通して,文章を読み取り,自分の考えを書く力を身に付けられるようにする。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○グループ活動・ICT機器の活用等を通して,意欲的に自分の考えを発表できる。 ●課題に応じて,必要な情報等を取り入れたり,自分の考えをまとめたりすることに課題がある。	・学習したことを活用し,根拠や理由を明らかにして,自分の考えを書いたり発表したりすることができる。 ・友だちの考えと自分の考えを比べながら話を聞くことができる。	・学習隊形(ペア・グループ)や,話し合いの方法(ICT機器や思考ツール)を工夫して,自分の考えと友達の考えを比べることができる力を身につけられるようにする。 ・PBSの手法で,「聞き方名人」「発表の仕方」を活用して,聞く力や話す力の育成に努める。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○宿題等,与えられた課題については真面目に取り組むことができる。 ●主体的に学習に取り組むことができるが,苦手な学習内容に対して,自分で計画を立ててやり抜く粘り強さに課題がある。	・自分の苦手な課題に応じてICT機器やプリントなどを使って主体的に学ぶことができる。	・子どもたちが自分の課題を把握し,目標の設定ができる環境を準備する。 ・子どもたちが主体的に課題を選び学習する時間を設定する。 ・目標達成基準を可視化し,個々の目標が達成できたか把握し,頑張り認められるようにする。			

令和6年度 学力向上ロードマップ

